市民新聞グループ 岡谷市民新聞・下諏訪市民新聞・諏訪市民新聞・茅野市民新聞・たつの新聞・みのわ新聞・南みのわ新聞共通版

ふるさとのお宝再発見 ⑬

市民新聞グループの土曜特集
週刊 見る
この特集をさらにご希望の方は、新聞販売店かお近くのコンビニでお求め下さい

国重要文化財 片倉館

設計者 森山松之助と建設を担った人たち

諏訪市

建物の完成には、企画し資金を出す人・会社（施主）、設計監理（監督）する人・会社、工事に携わる人・会社、材料を納める人・会社……さまざまな人が関わっています。

片倉館は1928（昭和3）年10月28日に竣工しました。浴場棟は鉄筋コンクリート造地下1階地上3階建て、会館棟は木造2階建て、別館は木造2階建てです。

片倉館の場合には、設計者の森山松之助は明らかであるものの、施工者については明らかではありませんでした。長野県建設業協会諏訪支部の「諏訪建設業の歩み」には「小口工業株式会社小口四平が88万円で請け負った」「石材工事は茅野の土橋藤重、庭園工事は長地の竹柏園が施工した」とあり、諏訪市教育委員会の資料には、棟梁「宮坂健吾」の名がありますが、工事の規模から考えると、信頼性に欠け、以前からこれほどの建物の施工者が明白でないのはなぜなのか、不思議に思っていました。さらには、湖を挟んで対峙する1936（昭和11）年3月29日竣工の旧岡谷市庁舎は施工者は明白でありながら、設計者が不明です。この二つの建物について、この紙面で暫時その設計と施工の実態を明らかにしてみたいと考えます。

片倉館建設の記録は、85年の歳月を経た今も図面や写真、書類はたくさん残っています。421枚の図面は、建物の国重要文化財の指定と同時に「附＝つけたり」として指定されましたが、他に残された紙片や手紙から読み取ると、その施工の体制は右表のようになります。

すなわち、片倉の直営によって工事はなされているのです。種々の材料や工事は見積りを広く日本中に求め、設計者と施主の明確な意図を反映して「質の高い物を適正な単価で」という片倉のスケールの大きさと物を見る目の確かさ、総合的な力量が感じられて興味深いものがあります。

驚異的なことに工事費内訳書の項目別の一覧表が残されています。片倉は総事業費として80万円余を集めたとされていますが、建設工事の関係にはそのうちの55万9568円が費やされています。設計監理料も明白になっています。残された手紙の中には「基礎工事が遅れているが、いつから職人を送り込んだらよいか」とか「難工事で思いのほか業務量が増えたので、増額してもらえないか」というような文面があって、一人一人の生々しい息遣いが聞こえてくるようです。

仕事上、設計監理料には大変興味がありますが、全体の料率6・88％には微妙なリアリティーがあって驚かされます。重点監理と異なり、常駐して現場代理人（監督）に近い形態であったかと思われます。

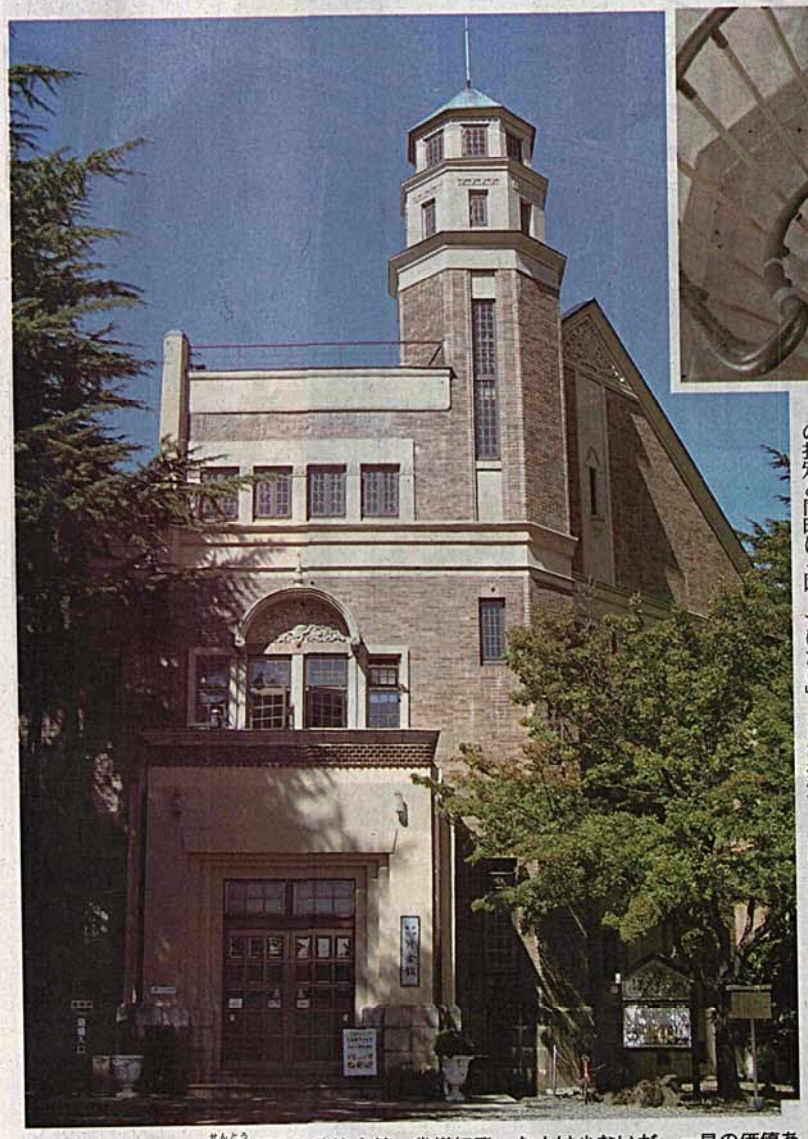
全容の解明には時間がかかりますが、驚くべきことに現在でも活発に活動している会社もあって、時代の変遷と歴史の不思議さに心が打たれます。棟梁の住所も残されており、ご子孫の方もお住まいでしょうから、いずれお話も聞ける機会もあろうかと思われます。

なお、森山松之助については「LIXIL eye」（LIXIL2013年4月発行）のNo.2に古田智久先生が生い立ちから作品、経歴など詳述しています。丸千組については「故郷 諸町の歴史と文化を後世に」（故郷諸町の歴史と文化を残す会発行）に紹介されていますので、参考にしていただければ幸いです。

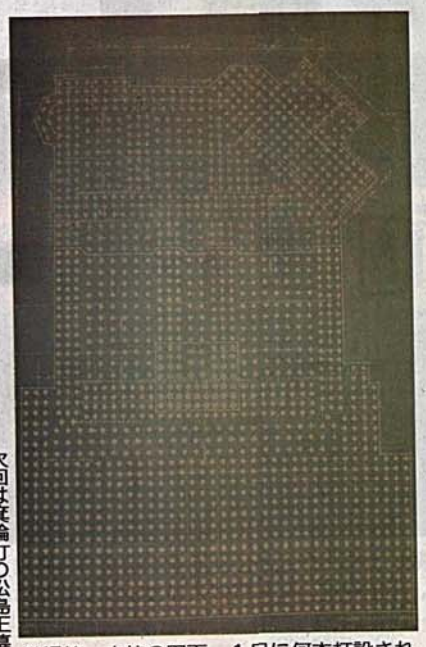
（諏訪市文化財専門審議会委員で、諏訪総合設計代表の宮坂正博さんに執筆していただきました）

	片倉製糸紡績株式会社 片倉合名会社 建築課 藤森		
	片倉合名会社 浴場建築事務所 倉田 恒雄 電話 上諏訪 604番	森山松之助事務所 中村 勇松 寺尾 鐵之助 (俸給250円)	
	浴場棟	会館棟	別館
工事費	281,407円	159,784円	118,377円
設計監理料	(内)15,120円	(内)14,040円	(内)6,840円
埋立て・盛り土	小口良夫（上諏訪片羽）、矢島恒友（上諏訪）		
杭・土工事	小口工業株式会社（小口四平）（岡谷市丸山橋付近＝八王子市に現存）		
砂利	釜無川砂利株式会社（山梨県中巨摩郡竜王村）		
鉄筋コンクリート工事	大正鉄筋コンクリート工業所（東京都芝区白金台・現存）型枠と鉄筋の工事か？（型枠3,000面坪、鉄筋160㌧、セメント4,500樽＝380封度）		
鉄骨工事	伊那電気鉄道株式会社松島工場（鉄骨の本格的な工事は近在では 鉄道会社しかできなかったか）（浴場鉄骨26.3㌧＝4,150円）		
大工・木工事（棟梁）	浴場・会館 五味春吉（上諏訪）・宮坂荘吾（上諏訪）・森田定義（下諏訪）		別館 宮坂健治（上諏訪）・五味春吉（上諏訪）
木材	丸久材木店（平野村）、片桐吉之助（川岸）、原喬衛商店（須原）		別館 鋼板 牧内東蔵（川岸）
タイル	合名会社丸千組（高遠諸町）材料のみで工事は荒井万平が施工したか		
電灯電力配線	島田商会 （東京都麹町区 島田房太郎）（設計料200円工事費9,900円）		
設備工事	株式会社須賀商会東京支店（京橋区、本社大阪市東区）（工事費24,100円）		
電話	金万電気商会（東京）（共電式14回線）		
金属建具	日松製作所（名古屋）		
防水	合資会社三柏商会		
家具	朝倉善八製作所	木製建具	横溝建具（東京都芝区高輪 工事費 14,355円62銭）
左官	荒井万平（東京都日本橋区）、外壁左官彫刻は台湾総督府市街建築美化指導員の高梨三五郎（またはその兄弟）の指導を受け、浴場棟は宮坂兼人（小井川）、会館棟は橋本（大阪）が担当した		
畳	林多一郎（川岸 327枚）	井戸	長岡井戸屋（上諏訪）

	合計 559,568円
	合計(内)36,000円



青空に切妻の屋根と尖塔が映える片倉館。尖塔に登った人は少ないが、一見の価値あり。人一人がようやく通れる螺旋階段（右上の写真）、下の方は外壁からの片持ち階段、上部は細身のパイプの柱に鉄板をリベットで組み上げた段板を取り付けてあり、最上部は小円の回廊に八角形に8面の窓。手摺の曲線に技術の高さが感じられる



浴場棟　木杭の図面。1日に何本打設されたかの記録も残っている。不同沈下も起こさず、いまだに健全でいる。数字や数式で表せない伝統的な技術に学ぶものは多い。木杭は長さ4.5㍍～5.4㍍、末口17㌢の丸太で、浴場棟に1700本、会館棟に454本、別館に285本、その他82本一計2521本が打設された

高遠丸千窯のスクラッチ（scratch＝ひっかく）タイル。旧岡谷市役所などあちこちに残っている。この時代のタイルは質の割に付着がよく、剥落しない。貧調合（セメントが少ない）のがよいという意見がある。現代のタイルは品質はよいが、付着が悪く剥離、剥落が多発している。化粧のボーダー（border＝縁）タイルのデザインは高遠電燈の建物に使われたタイルに酷似していることから、使われている役物のタイルもすべて丸千組で造られたと考えられる。丸千組は製糸の製陶鍋や半月鍋も製造した

屋根の図面に描かれた不思議な紋様（シェブロン＝chevron、山形・逆V字形＝上の写真）。近くで見ると名残があるが、経年劣化で鮮明ではない。一体何のためにこの様な紋様を描いたものか？スレートをひっかいて目を変えたものか？竣工してから数年後に発行された絵はがき（右の写真）には紋様がしっかり写っている

次回は賓輪町の松島王墓古墳を紹介します。